参考資料2

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第4回）
H22．12．24

史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）の保存対策

１．千足古墳の概要

名　　称：造山古墳　第一・二・三・四・五・六古墳（千足古墳は第五古墳）

所 在 地：岡山県岡山市

管理団体：岡山市

指　　定：史跡指定（大正１０年３月３日）

概　　要：造山古墳は５世紀前半に築造された巨大な前方後円墳である。墳丘規模は３６０ｍ、陵墓（仁徳陵・応神陵・履中陵）を除いては最大である。

第五古墳が千足古墳である。横穴式石室をもつ５世紀中頃の古墳であり、石障(せきしょう)（玄室奥の埋葬空間を区切る石、砂岩製）に直弧文の装飾があることで有名である。

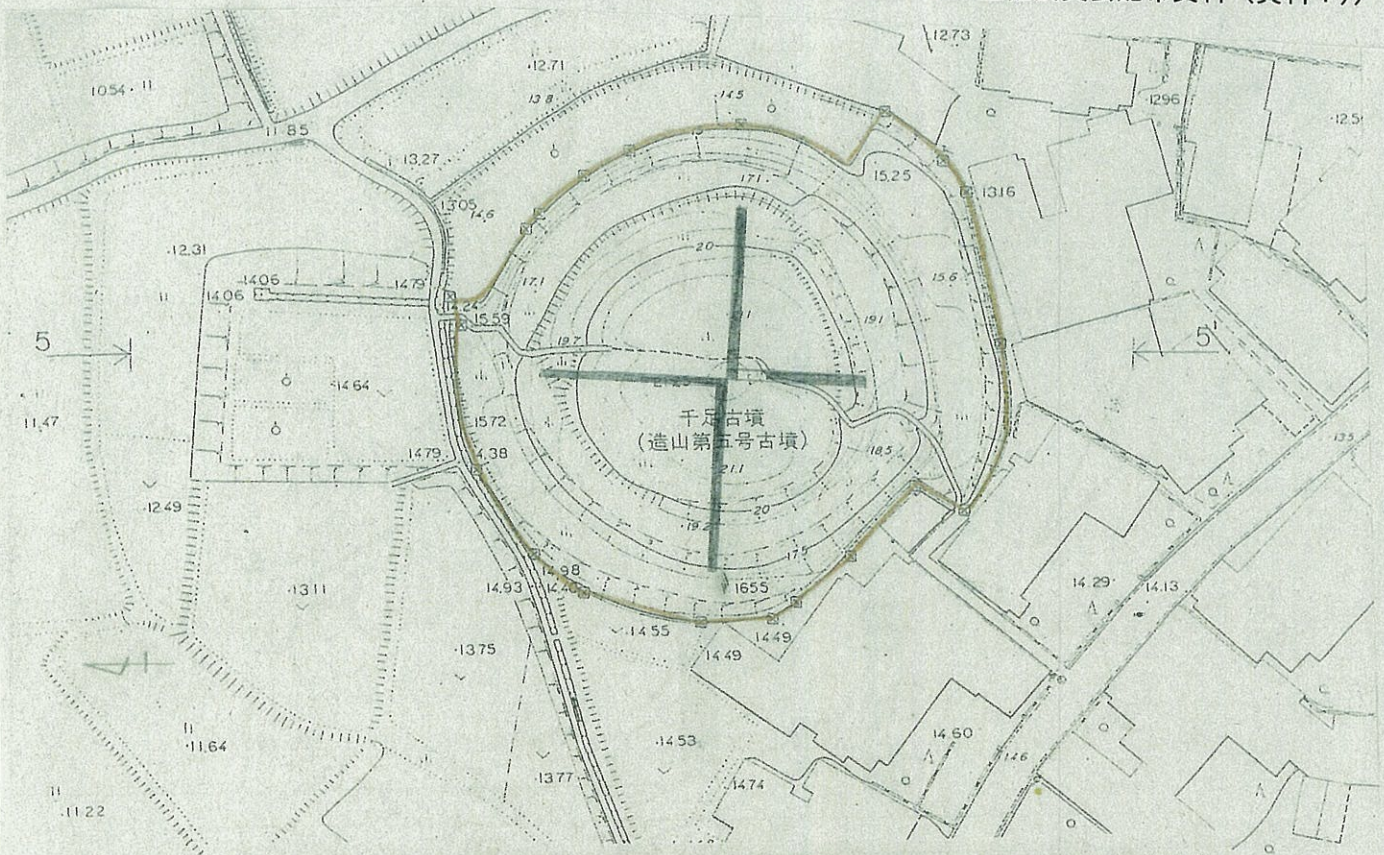
２．調査経緯

・　岡山大学新納(にいろ)教授による調査（平成２０～２２年度）の一環として、平成２１年１０月に第五古墳（千足古墳）の石障の線刻文様の三次元測量を実施するため、水没した石室内の水を抜いた際、直弧文のある石材（石障）等に剥離が確認された。

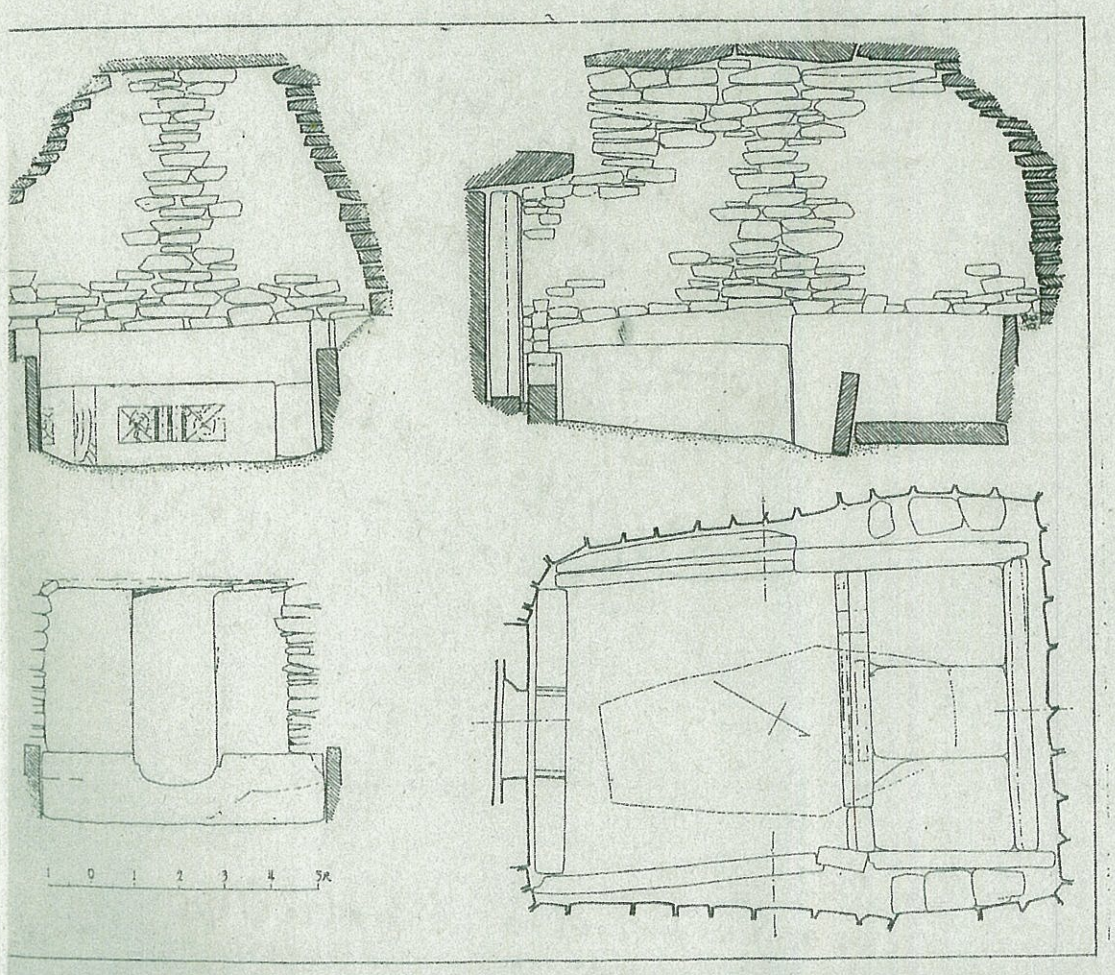
・　き損発覚後、岡山市教育委員会において、その原因究明及び今後の対策のための調査に取りかかり、現在、有識者による史跡造山古墳（第五古墳）保存整備委員会を組織し、保存対策について検討を行っている。

（別紙１）

（第２回史跡造山古墳（第５古墳）保存整備委員会配布資料（資料１））



史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）測量図（赤線部分が史跡指定地）



史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）石室実測図

（別紙２）

（第２回史跡造山古墳（第５古墳）保存整備委員会配布資料（資料５））

史跡造山古墳第五古墳（千足古墳）石障損傷発見から現在までの経緯

平成２１年９月２９日：岡山大学考古学研究室による石室内部測量準備、水抜き開始

１０月　１日：石室内に堆積したヘドロの除去作業

１０月　５日：岡山大学新納氏から直弧文の下半分が剥落しているとの連絡が入る。岡山県・岡山市立ち会い。文化庁に概要を報告。
（石室内の水を排水し、離水状態を保ち、経過観察をおこなう）

１０月１４日：高妻洋成氏（奈良文化財研究所）来岡し、現地調査。

１０月１５日：文化庁に経緯・現況等を報告に行く。

１１月１１日：文化庁（三宅調査官・建石調査官）現地視察。

１２月１８日：鈴木茂之氏(岡山大学理学部)が現地で石室石材の同定を試みる

平成２２年２月１２日：宇田川滋正氏（文化庁古墳壁画室）石崎武志氏（東京文化財研究所）、高妻洋成氏（奈良文化財研究所）、脇谷草一郎氏（奈良文化財研究所）、来岡し、水質、石材等の現地調査。

３月２９日～３１日：金田明大氏（奈良文化財研究所）が来岡し、電探調査をおこなう。羨道部がほとんどないことと、石室の掘り方も顕著でない可能性が高いことを指摘。

５月１６日：入り口左壁部にかび確認。エチルアルコールを噴霧。
入り口部付近の乾燥している部分ではかびが認められる。

６月２４日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏、脇谷草一郎氏 、金田明大氏と石障の保存・保護及び電探調査の成果について協議

７月１２日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議

７月１３日：文化庁の建石調査官、奈良文化財研究所の高妻洋成氏、脇谷草一郎氏が来岡し、現状調査と保護・保存に関し協議

７月２０日：平成２２年度第１回史跡造山古墳第五古墳保存整備委員会開催

８月１６日：文化庁で千足古墳の保護・保存について協議

８月１２日：奈良文化財研究所で、高妻洋成氏、脇谷草一郎氏と石障石材の破片サンプリングの選別と、土壌サンプリング手順について協議

９月２９日：平成２２年度第１回作業部会開催

９月３０日：田中哲雄委員現地調査

１０月　８日：内田和伸氏（文化庁記念物課整備部門）現地調査

１０月２６日：奈良文化財研究所で高妻洋成氏、三村衛氏と石障保存措置を協議

１１月　１日：発掘調査開始

１１月１０日：脇谷草一郎氏（奈良文化財研究所）墳丘土壌サンプリング調査
石障表面及び石室温度自動計測器設置

（別紙３）

（第１回史跡造山古墳（第５古墳）保存整備委員会配布資料（資料８））

１１月１６日：佐藤正和氏（文化庁記念物課史跡部門）現地視察

千足古墳石障：平成２２年１０月５日